

国語科（国語表現）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 3単位
2 実施日時 令和7年 月 日（ ） 第 時限
3 学 級 HR（名）
4 使用教科書 国語表現（大修館書店）
5 単元（題材）名 小論文とは何か 小論文入門（1）

6 単元設定の理由

(1) 生徒観

生徒は、自分の意見を明確に述べたり文章化したりすることを苦手とする者が多い。「小論文とは何か」を通して、その力を身に付けさせたい。

また、他者の考えに触れ、自らの意見を持つことを目指し、これからの社会で役立つ力を身に付けさせる機会としたい。

(2) 教材観

本教材は、「小論文」の基本的な書き方を身に付け、実際に書けるようになることを目標としている。

生徒はこれまで、自分について考えるような学習に取り組んできた。本教材では様々な考えに触れ、自分の意見を持てるようにしたい。

(3) 指導観

実際に短い小論文を書くことで、文章を書くことへの苦手意識をなくしたい。

また、相互評価をすることで、次の学習へと繋げたい。

7 単元の目標

- (1) 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解しようとすることができる。
[知識及び技能] (1) ア
- (2) 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫することができる。
[思考力、判断力、表現力等] B (1) エ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

8 本単元における言語活動

前時の構成メモを基に小論文を書き、相互評価表に「ほめたい点」と「改善へのアドバイス」をまとめることで次の学習に繋げる。（書くこと）

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。[知識及び技能] (1) ア	①自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。[思考力、判断力、表現力等] B (1) エ	①言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

10 指導と評価の計画（全3時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	教科書の二つの文章を読み、その違いを知る。 小論文の定義・条件を学ぶ。 テーマについて構成メモを書く。	[知識・技能] ① 「記述の確認」
第2次 (1時間)	構成メモに従って小論文を書く。 相互評価をする。 本時（1／1）	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」①
第3次 (1時間)	前時の相互評価表をもとに課題を検討する。 課題を認識し、学習を深める。 これまでの学習内容を思い起こし、次の学習へ繋げる。	[主体的に学習に取り組む 態度] ① 「記述の確認」

11 本時の目標 自分の意見を明確にして小論文を書き、相互評価をすることで表現の仕方を工夫することができる。

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
導入 5分	・本時の目標を知る。	・本時の目標を説明する。		
展開 40分	・前時の構成メモに従って小論文を書く。	・書き出せない生徒には、書き出しの例を示すようにする。	「思考・判断・表現」 自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫しようとしている。	・「記述の分析」 ワークシート
	・各自の小論文を見て相互評価をする。	・ほめたい点や改善へのアドバイスなど、前向きな意見を書くよう指示する。	「知識・技能」 言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解しようとしている。	・「記述の分析」 ワークシート
まとめ 5分	・本時の学習内容を確認する。			

13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫して小論文を書いている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫するよう声かけをする。